ホラシ、カフロン氏ヨリ北海道開拓之儀ニ付
差出候横文書簡譯稿

4063

小引

千八百七十二年第一月二日日本江戸ニ於テ
黒田開拓使次官閣下ニ呈ス

千八百七十一年第四月三日美國聯邦ノ首府華盛頓ニ於テ日本政府ト取結タル約束ノ趣意ニ従ヒ余今蝦夷島ノ開拓筋并ニ此后ノ處置振等最始ノ調書ヲ謹テ貴覧ニ呈ス

コレマテ彼島ノ氣候種物ヽ如何ナルヤヲ判定ス可キ風土記ニ甚タ乏シク或ハ一箇人ノ調タル書ニ依

大正十一年四月 大隈侯爵家寄贈

イ14
A1315

地質如何

リ或ハ外國ト緯度ノ差如何ヲ較定セル者ニ基クヲ以テ其地味耕作ニ至当ナルヤ否ヲ計リ定ル者ハ總テ根據ナキ憶断ニ出シノミ

地皮ハ其器械的ノ結構ニ於テ豊饒ナル地皮ノ諸成分ヲ含メリ然レトモ或ハ地中及ヒ大気中ニ適宜ノ暖度ナキカ為メニ物ヲ産ルヿ能ハサルニ至リ或ハ水分過度ナルニ依リ又ハ濕氣乏シキニ據テ豊饒ノ地皮変敗スルヿアリ。此等ノ模様ハ教師アレテセ

太政官

蝦夷島ト外邦ノ風土如何ヲ較論ス

ルヒカ彼ノ地暫時ノ滞留中ニ得タル報聞ニ依テ知ル所也。蝦夷島開拓ノ策中此最モ緊要ナル事件ニ就テ我等カ明白ナル説ヲ左ニ演述ス可シ

歐羅巴大洲中同緯度ノ気候ヲ撿査シ之ヲ以テ蝦夷ノ氣候ヲ較シテ推判センハキハメテ至当ノ事ニ非ス然レモ彼ノ島ハ美理格ノ大洲中直ニ大洋ノ流汐風勢ニ感サル内地ノ同緯度ニ当ル処ノ気候ト甚タ相似タルヲ見ル也而テ聯邦ノ最モ人烟稠密ニシテ

太政官

繁昌ナル州郡ハ多クコノ内ニアリ
蝦夷島ニ十分ニ繁生スル杖木其他ノ樹木ヲ教師カ
調タル目録ニ就テ見ルニ槲桃栗椎榫楓砂糖楓、井ン、
イウ(不詳)等ノ諸種殆ト全備セリ是レ實ニ同緯度タル
紐約(ニウヨルク)、邊西威業(ペンシルワニヤ)、呵海呵(オハヨー)、米西幹(ミシガン)等ニ於テ見ル美國林樹
ノ完備セル目録ヲ見ルカ如シ而テ蝦夷ニ於テハ高
樹山ノ半腹ニ生ス美國ニ於テハサルヿナシ高処ニ
至テハ樹木蓊欝シテ高キニ至ルヿ稀ナリ

同暖線トハ緯度ニ拘ラス熱度相同キ場所ニ引タル線ヲ云フ也

聯邦諾格阿利納(ノスカロリナ)ノ老里(ラリー)ヨリ同暖線(同暖線トハ緯度ニ拘ラス熱度相同キ場所ニ引タル線ヲ云フナリ)ヲ採リ此線ヲ追テ美國ノ大洲及ヒ
大平洋ヲ横切リ日本島ニ至レハ江戸「三十五度廿分」
ノ近傍ヲ過ク茲ニ彼我ノ寒暖及ヒ雨量ヲ較スルニ
小異アルノミ又紐約府「緯度四十一度三十分」ヨリ同
暖線ヲ採レハ函館「緯度四十一度四十六分」ノ近傍ニ
達ス此地五年間歳々平均ノ暖度四十七度四十七分
也而テ緯度四十一度二十分ニ当ル手揑底格(コンネチクット)ノ紐赫

温及ヒ其近邉ノ海岸ハ同年間平均ノ暖度四十九度タルヲ見ル

余此等ノ比例ヲ追テ函館馬浅朱竺則ノ「カムブリーチ及ヒ紐約ノ「ペンシヤム」ニ於ル四年間平均ノ暖度ヲ左ニ記ス

函館 緯度四十一度四十六分	寒暑 四十三度二分	六十四度	五十九度	廿九度四分
馬邦 カムブリーチ 四十二度	四十四度五十七分	七十度	五十一度七分	廿三度九分
紐邦 ペンシヤム 四十二度四十分	四十二度廿七分	六十六度廿分	四十九度九十八分	廿三度五十分

五年間平均ノ暖度左ノ如シ

函館　四十七度四十七分

馬邦 カムブリーヂ　四十九度

紐邦 ペンシヤム　四十五度四十六分

各所最上最下ノ暖度左ノ如シ

紐約邦　緯度四十一度ニ起リ四十三度三十分ニ至テ止ム

千八百七十年第一月　最上 六十八度　最下 十四度

同年　第一月　最上四十六度　最下廿五度

威仕幹清邦 緯度四十二度三十分ニ起リ四十五度ニ至テ止ム

千八百七十年第一月　最上四十六度　最下廿五度

同年　第二月　最上五十四度　最下廿九度

筥舘一歳中　最上四十八度　最下二度

是レヲ以テ見ルニ筥舘ニ於テ八年中寒暑針氷点ニ達セシ事曽テ有ルヿナシ而テ紐邦并ニ威邦ヘ於テハ氷点下廿五乃至廿九度ニ至ルヿアリ余親ク伊利那倚ノ北部ニ於テ氷点下三十二度ノ寒氣ニ觸タルヿアリ

右三所ニ於テ六七八三ヶ月五ヶ年間平均ノ暖度左ノ如シ

	第六月	第七月	第八月
筥舘 緯度四十一度四十六分	五十八度六十六分	六十四度六十六分	六十八度七十九分
馬邦 カムブリーヂ 四十二度	六十六度	七十一度十分	七十度
紐邦 ペンシヤム 四十二度四十二分	六十四度五十三分	六十六度七十分	六十七度廿二分

雨量

箚館　三十八インチ、零五
聯邦　三十六インチ九二　三十二ヶ処ニ於テ試ム

聯邦スミスソニアレ、インスチチート英人スミスソン氏ノ建ル所ノ諸術学校ノ風土記及ヒ教師アレチセル」ノ書ヨリ得タル寒暖及ヒ雨量ノ比例右ノ如シ之レヲ以テ見ルニ寒暖及ヒ雨量ニ於テハ彼我著シキ差アルコトナシ加之蝦夷天生ノ樹木ヲ以テ併セ考ルニ蝦夷ハ美國聯邦中最モ人煙稠密ニシテ繁栄ナル地ト比較スヘキノ地ナリ

蝦夷ハ積雪多キヲ以テ大ニ利益アリ「前文ノ雨量中ニ雪ヲ算入セリ」是レ地皮及ヒ秋時種蒔シタル雑穀及ヒ雑草ノ冱凝ヲ防キ且ツ寒気ノ深ク地皮中ニ透徹スルヲ妨クルヲ以テ春ニ至リ積雪消散スルニ及テ地皮冱結スルコトナシ　緬、馬、花、牛、干、紐邊、北阿、印、伊、其他北西ノ諸邦ニ於テハ春時雪消ノ后地中冱結スルコト数尺ニシテ屡ヒ春ノ種物

ヲ卸スノ時ヲ遅延セシムルヿ之レアリ

蝦夷気候ノ論終局

右諸般ノ事実ニ就テ再思熟考シ且ツ余カ右北方ノ諸邦ニ於テ親シク実験スル処ヲ以テ参考スルニ蝦夷島ノ不易利潤ノ開拓ヲ妨ル者ハ地皮ノ故ニアラス亦気候ニモ非サルナリ只気候ニ就テノ一缺憾ハ夏時ノ気候十分ナラス是レ恐ラクハ玉黍ヲ熟セシムルカ如キ熱度ニ至ラサルナリ

蝦夷ノ壙類

蝦夷従来開坑ノ方ヲ論ス

教師アンチセルノ書ヲ見ルニ是迄此財源ヲ開採スルノ方其正ヲ得サル而已ナラス亦其巧ヲ究メス未時ヲ鑿スルニ採壙ヲ施シ行ク可キモ従前ノ方ヲ以テ為レハ誤ルヿナルヘシ

蝦夷壙物ノ値價

彼島ニ於テ既ニ看出セル石炭銀及ヒ硫黄ノ如キ已ニ大ナル値價アルモノナレハ政府或ハ庶人ニモセヨ其開採ノ方宜キヲ得ハカナラス無量ノ財源タルヿ疑ヲ容ルヘカラス其他ノ壙物ノ如キハ如此ノ詳

「カセモナ」ノ煤坑

明ナラス然レ氏壙物アラント思フノ地探索ヲ経タル処微ニ四分ノ一ニスキス来時何等ノ宝物ヲ看出スルヤ又前徴アル所カナラス利潤アリヤ博士モ素ヨリ之レヲ前知スル能ハサルナリ

カセモナ岩内ノ東方ノ煤坑ノ如キハカナラス良讀アルヘケレハ廉直ニシテ能ク任ニ堪ル人ニ托シ勘弁シ財ヲ費用セハ必ス國益ト為ルヘシ○此煤坑ニ於テ改ムヘキ事二アリ一ハ海岸ノ揚場并ニ煤坑ヨリ直

大野ノ銀山

恵山ノ硫黄

ニ荷船ニ積入ル、手段ヲ改正スルニ在リ従前ノ仕方ハ拙ニシテ殆ト無用ニ属ス第二ハ此坑ヲ更ニ開採スルニ在リ其委細ハ教師アンチセルカ此坑ニ就テノ調書アリ貴下之ヲ参考アル可シ

大野山間ノ銀坑モ同様ノ審判ヲ以テ開ク可シ其委細ハ同氏銀山ノ調書ニ譲リ茲ニ贅セス

恵山ノ硫黄坑ノ如キハ貿易ノ為メ生硫黄ヲ売ル而已ナラス有益ナル硫酸及ヒ火薬ヲ製スル良法ヲ要

製造ノ工凡

スルノミ
此三種ノ業ハ孰レモ其仕方簡畧ニシテ取締ヨリノ力ヲ用ル切ナラシニハカナラス國益ト為ランコト毫モ疑ナシ○総テ此等ノ業ハ海外ニ於テハ政府自ラ之ヲ行フコト殆ト稀ニシテ曽テ如此キ事ナシ他邦ハ論セス英亜両國ニ於テハ之ヲ実験ニ試ルニ庶人ニ任スル方其成績却テ大ニシテ且ツ利アリ按スルニ右

採壙ノ業ハ庶人ニ任スヘキノ論

各種ノ壙坑ハ政府ヨリ庶人又ハ會社ニ之ヲ開採スルノ免許ヲ與ヘ税ヲ納メシムルノ法ヲ以テセハ政府親ク手ヲ下スヨリモ其成功確乎トシテ且ツ速カニ且ツ十全ヲ得ヘシ蓋シ第一ト為ル所ハ土着ノ法所有ノ權理ヲ定ル律并ニ國内採礦ノ利ヲ規定スヘキ律ヲ議定シ礦山局ヲ所立テ堪職ノ士官ニ百事ヲ委任スルニ在リ

託ニ立セル礦山局

然レモ若シ政府官費ヲ以テ此等ノ壙坑ヲ開カント欲セハ余幾時ヲ論セス更ニ坑ヲ開キ壙ヲ採ルノ方

法等ヲ畫定セシム可シ

札幌

教師アラチセル并ニ「メシヨル、ワルヒールト」カ書ニ載タル此府ノ地勢如何ノ判論ヲ撿査シ且ツ他ニ至当ノ地方ナケレハ我等此處ヲ首府ト定メ其地ヲ改正シ更好ト為スノ方策ヲ述フ可シ

石狩ノ野ハ豊饒ノ地多シ若シ開拓宜キヲ得ハ以テ人口数百ヲ保存スルニ堪ヘシ○其河タル大流ニシテ

太政官

シテ内地ニ入ル數里ノ間水深クシテ両岸ニ大木繁茂ス其水源ハ恐ラク未タ人ノ至ラサル壙田ニ出ルナル可シ○其河口日本海ニ入ルノ部ヲ適度ニ改革セハ岸ヲ渡ル相應ノ大船水ノ増減ヲ論セス河口ヲ颿入シ以テ安全至当ノ碇泊所ヲ得ヘク亦以テ遠ク内地ニ走リ入ルヲ得ヘシ

石狩川ニ流レ入ル數十ノ小流ハ其源ヲ永世尽ルナキ泉及ヒ周圍山間ノ解雪ニ採ルヲ以テ百工製造水

太政官

道路ヲ開クヲ論ス

車其他ノ爲メニ無量不究ノ水力ヲ備フ可シ加之無數ノ木材ヲリ恐ク家ヲ建ルノ良石及ヒ石炭ヲ除クノ外百物乏ラサル者ナシ蓋シ此両品（石、石灰）ハコレ迄首府ノ四隣ニ見スト雖モ石狩ノ河畔未タ探ラサル地ニ於テ得ルヿナラン此度彼地ヲ見分セル両氏ノ書中首府トノ通路ヲ開クノ諸案アリ其両氏ノ取調書ハ余此昏ニ添タリ○其案中第一簡要ナルハ札幌ヨリ石狩ノ河「セノロ」河口マテ善良ナル車道ヲ造ルニ在リ其道程凡ソ十二「マイル」ナリ○方今此府ニ通フ道ハ爲蹄ノ通フ小路ノ外アルヿナケレハ此車道ヲ開クヿ最モ須要ナル可シ然而室蘭ノ港迄堅要ナル一路ヲ開ク迄ハ此道ヲ以テ首府ニ到ルノ本道トス可シ

室蘭ヨリ札幌マテ

右室蘭迄ノ區程ハ凡ソ一百「マイル」ナリ其間ニ日本ノ東海道ニ等ク良キ「マクアダムス」路（地上ニ小砂ヲ敷タル區）ヲ造リ時ノ至ルヲ待テ鐵道ヲ開ク可シ其両道共ニ

室蘭港

途中之レヲ開クニ但得トナルベキ者ナシ
室蘭ノ港ハ后世札幌ノ海関ト為ル可キ地ニシテ結
氷ノ為メニ閉ラルヽノヿナク四時船ヲ通ス可シ且ツ
其港タル風濤ノ危難ナク水深クシテ巨艦ヲ容ル可
ク海底砂軟カニシテ碇錨ヲ止ム可シ實ニ此港及ヒ
函館ハ恐ラク皇國日本中ノ美港ナル可シ
西方ノ海岸ニハ相当ノ港ナク且ツ石狩河ハ歳ニ五
ヶ月ノ間氷ノ為メニ閉ラル、ヲ以テ首府ト室蘭ト

来春車路ヲ測量スヘキ事

政府ノ耕作場ヲ札幌ニ移ス事

ノ間ニ一路ヲ開クハ最大要件タルヿ論ヲ待タス故
ニ速カニ用意ヲ為シ早春車路鐵道ノ為メニ十分測
量ヲ為シ其造ル可キ処ヲ定メ車路ハ速ニ之ヲ開キ
給ハンヿヲ忠告ス室蘭ヨリ江戸ニ至ルト函館ヨリ
来ルトノ道程ハ室蘭ノ方少シク遠シト雖モ其費ヤ
ス時間ニ至テハ殆ト相全シトス
函館ニ近キ七重ニ政府ノ耕作場ヲ起セシハ当時ニ
於テ恐ラク其処ヲ得タリト雖モ首府ヲ札幌ニ開ク

上ハ茲ニ開拓使ノ諸業ヲ集ル方便宜ニシテ且ツ貴少シ須ク以来ハ之レヲ札幌ニ置ク可シ此耕作場ハ巨大ノ者ヲ要セス農ノ諸業及ヒ花果培植園蔬灌漑ノ諸事全備シテ稼穡試験学校ノ用ニ供スヘキモノニシテ足リ蓋シ其地面タル農具ノ用方器械ノ運転耕培ノ方法肥糞ノ用ヒ方及ヒ獣類牧養ノ術等ヲ示ス可キ十分ノ廣サアルヘシ斯ク一區中ニ農ノ百藝ヲ包括スレハ何事ニヨラス半途ニ廃ル

札幌ニ百工製作ヲ起ス事

コトナク能ク十全ヲ得ヘシ余思フニ百「アケル」「拾二万千坪」ノ地ヲ以テ方今ノ望ヲ充スニ足ルヘシ而テ未時要スルニ従テ漸クニ盛大ト為可シ

車工、鋳工、木工、錫師、農具師ノ如キ工ヲ速ニ札幌ニ開キ且ツ雑穀ヲ粉トシ又丸木ヲ鋸ク為メ水車ヲ取建ハシ此等ハ廣人ノ手ニ任ス可シト雖モ其始メニ於テハ政府ノ為メニ救助ヲ加ヘサルヲ得ス〇日本ノ国民ハ心頴手慧ナレハ百工技藝ニ引用スヘキ道具

器械ハ之ヲ摸製スルヿヲ得ヘシ

果實ノ土産ナルヿ果実緊要

果實

果實ハ特ニ蝦夷ノミナラス全日本ノ為メニ要物ノ一ナレハ殊ニ考案ヲ廻ラスヘキ要件ナリ日本ノ地皮タル最モ豊饒ニシテ其氣候タル温帯及ヒ半熱帯中ニアレハ五大洲中同帯ノ地ニ産ル果實ハ此國ニ發生セサルヿ有ヘカラス

果樹早ニ生ス可シ

林檎ハ其類千種アリ園中果樹ノ中最モ美ナル者ナリ此樹タル魯西ノ寒地ニモ亦南部ノ温帯中ニモ能ク生長スル者ナリ故ニ蝦夷島及ヒ日本ハ此樹并ニ梨梅ノ如キ果樹ニ相應スヘシ且ツ桃其他小果ノ樹ニ宜シカラン又日本ノ火山ノ埜ハ各種ノ葡萄酒ヲ製スル葡萄樹ヲ植ルニ宜シ

他邦ノ果樹ヲ移シ植レハ仕損スルヿ有ト雖モ亦効ヲ成スモ又必ス多シ而テ日本ノ果ヲ養フ者一朝其價ヲ知ルトキハ忽テ本果ト等シキ新種ヲ発育スルニ

至ル可シ○此事一旦成就セハ政府此業ニ貴タルヲ
償フノミナラス大ニ報ヲ得ルナルヘシ
日本政府ノ余ヲ遇スルヤ厚ク其任スルヤ重キヲ以テ
余専ラ心ヲ政府ノ利用ニ留メ無用ニシテ且ツ見留
ナキ試験ニ落入ンヿヲ恐レ就中百物繁生如何ニ
拘ル一大疑ニ点タル蝦夷地ノ気候等ヲ再三再四
熟考シテ之レヲ較シ定メタリ余今古較定セル件々
ト余カ實験ニ出ル処及ヒ教師アンチセル」メシヨル

ワルヒールド両氏ノ書地圖等併テ之ヲ尊覧ニ呈シ
諸事貴下ノ賢断ヲ仰カントス○后来ノ處置ニ至テ
余カ注目スル処ハ蝦夷地ヲ開拓シテ畑ヲ造リ擴山
ヲ開テ金石ヲ採収シ其他諸般ノ開発ニ損ヘキ資銀
ヲ多ク備ヘ細心シテ之ヲ節ニ費用スルニ在リ其多
テ備ル処ノ資銀ハ甲事ニ備タル者ハ乙事ニ流用ス
可カラス或ハ一工ニ過分ノ力ヲ用ヰトシテ余カ耗
失スヘアラス是レ其本業ヲ進歩ノ地セシメサル所以ナ

ラス却テ遅延セシムル者ニシテ之レ無會計ニ屬ス
請フ之レカ爲メニ余ニ責ヲ負ハシムルナカレ
蝦夷島ニ民ヲ移シ地ヲ開ク事ニ就キ講求スヘキ了
數條アリ

地理

第一 地勢及ヒ廣袤

蝦夷ノ地タル北緯四十一度ヨリ四十五度廿分ノ間
ニ跨リ東京以東四度四十四分ヨリ十一度ノ間ニ在
リ地面約ルニ三万五千七百三十九方哩イル」ニシテ
地勢平坦ナラス山多クシテ豊饒ナル野多シ

材木

第二 材木

此地森林ニ富ミ各種ノ寶材アリ又大木アリ山ノ胸
腹ヨリ谷野ニ至ル迄樹木翁欝タリ

河水

第三 河流

此地清水ノ河多シ或ハ原野ニ流レ或ハ深ク山間ニ
入ル又石狩河ノ如キハ數十里ノ間船ヲ行ル可シ而
テ両岸ニ有益ノ材木アリ

第四 魚類

此地美魚ヲ産ス鮭鱈鱒鰯其他大ナル海魚多シ此等ハ流河及ヒ周圍ニ海濱ニ夥ク見ル処ナリ

第五 長毛ヲ禁ル獸類

此獸海陸共ニ多シ此地ニ住ル土人ノ外獵スル者ナシ是レ生活ノ一源ナリ

第六 水力

此地ノ水力依テ以テ大小ノ製造ヲ行フ可シ

第七 絲類

此地絲ヲ産ル物多シ麻生糸ノ如シ生糸ハ此島ニ産ル擶ノ一種及ヒ桒等ヲ以テ養フ蠶ヨリ得ヘシ

第八 港

此地ノ各港ハ少シノ失費ヲ以テ安全ナル碇泊処ト為ス可シ

第九 氣候

此地ノ氣候タル或ハ昏リ兔ル、能ハサルモ概子健

礦類

移民ノ論

康シテ物ヲ産セシム可シ畧ホ美國聯邦北部ノ氣候ニ同シケレハ地皮ヲ開発スル其宜ヲ得ハ田畑菓園蔬園ノ百物繁盛ス可シ此等ノ諸土産ハ現ニ聯邦ノ國境北緯四十二度ノ地ニ繁殖スル者ナリ

第十　礦物

此地礦物類ヲ産ル多シ探ル処未タ四分ノ一ニ過キソト雖モ大利ヲ起サント豫メ確言スルヲ得ヘシ此等生ヲ養ヒ業ヲ営ムノ諸財源ヲ以テ此地ニ植ルニ先立テ美理格大洲ニ遷住セシカ如キ豪氣ノ民ヲ以テ為ハ蝦夷地開拓移民如何ノ論一朝ニシテ決ス可シ此礦物アリ魚類アリ材木アリ地皮アリ加之永世無盡益ノ水力良港獸皮アリ或ハ其氣候ニ於テ碍妨アルモ聯邦政府カ斯クノ如キ折ニ於テ施シタルカ如キ寛大ノ約束ヲ以テ各國万民ニ轉居移住ヲ許サハ忽チ諸民蚊集シテ一アケルト雖モ用フヘキノ地ハ其主アラザル丁無キニ至ル可シ然リト雖モ之レニ

日本ノ國民ヲ移スヿ

移スニ只ニ國民ヲ以テ為ルノ議ナラスシニハ其趣全ク相異レリ日本暖和ノ地ニ産レ茲ニ生長セルノ民好テ蝦夷沍寒ノ地ニ自ラ赴ク者アルヘカラス漸ヲ以テ之レヲ導キ慣シメ加之寒地ニ安ク冬時ヲ凌キ能フヘキノ処以ヲ教示シ且ツ半ハ食物ヲ変シ一度之レニ習ヘハ筋肉ヲ強メ精神ヲ増シ之レニ加ルニ其健康ノ気ニ觸シハ特ニ沍寒ニ堪ル而己ナラス亦意ニ適スルヿアランヲ教諭スヘシ

欧亜寒地冬時ノ模様ヲ記ス

欧美両洲ノ北方蝦夷ニ倍セル酷寒ノ地ニ住スル者ハ降雪ニ便ヲ得テ諸般ノ苦業ヲ為スナリ大木ヲ伐リ薪ヲ切リテ之ヲ牽キ土産ヲ市ニ鬻クカ如キ雪舟(ソリ)ヲ以テスレハ荷車ヨリ其労大ニ少シ○此地ノ民タル冬間一歳ノ貯エ禽獣食料牛肉猪肉ホートルカーツ等ヲ用意シ以テ来夏職業ノ資用ニ充ス又身心ヲ慰シ礼ヲ返シ饗應ヲ設ケルノ時ニシテ亦以テ身ヲ修メ家ヲ齊ルノ道ヲ学フノ時ナリ百事整備セル家

ニ於テハ家族爐ヲ圍テ小座シ昏ヲ讀ミ世事ヲ話テ相談笑シ計后ノ父母カ此折ニトテ貯タル果実ヲ馳走スルモ亦此冬時ノ長夜ニ在リ○其家ノ造リ堅固ニシテ能ク寒ヲ防ク煖火猛ニシテ室内温カニ體寒カラス心長閑タ静ニ風雪ノ戸外ニ暴ルヽヲ聞キ父ハ高聲ニ新聞或ハ修善ノ書ヲ讀ミ婦女子ハ針ニ衣ヲ造リ落意ノ母ヨリ哯々タル赤子ニ至ル迄心ニ樂テ憂アルコナシ

是美國聯邦ノ寒地ニ住ム民間ノ冬ニシテ蝦夷ニモ知ラサル氷点下三十度ノ低キニ至ル時ナリシ吉凶ニ係ラス赤心ヲ以テ國ニ尽ス者ハ此等ノ民ニアリ其制等シク其政同シケレハ蝦夷ト云フモ何ソ同シキ事アラサランヤ

余殊更ニ民間ノ模様ヲ寫スハ蝦夷地冱寒ニシテ為ス無シトハ想像ニ出ル者ニシテ真事ニ非サルヲ示サンカ為メナリ

太政官

蝦夷地ヲ詳細ニ測量可キヿ

政府無量ノ廟筭ヲ以テ彼嶋ニ民ヲ移シ國ヲ開クニ何的ノ道ヲ以テスルモ先ツ全地ヲ測量シ各処ノ地勢ヲ知ル為メ之レカ全圖ヲ造リ而テ日本人ニ應ハク區ヲ分ケ又十分ヲ以テ之レヲ小別スルヿ緊要タル可シ

測量如何

測量ハ石狩ノ野ヲ以テ始トシ以テ他方ニ延ホシ兼ニ都邑ヲ開ク可キ地方ヲ定メ礦物アル地ハ各箇ニ之レヲ考味スヘシ

聯邦地処ノ律

此等ノ地ヲ人民ニ分與スル法ヲ創ル便宜参考ノ為メ余左ニ聯邦公地ヲ賣与スルノ律法簡畧ヲ附述ス

此事ニ就キ三律法アリ又補備数條アリ

土着ノ律

一 土着ノ律 ホトム、スチード、ロウ

此律ヲ以テ居ヲ移シ轉住スル者ニ其土着スル郡ノ地方役処即チ戸籍掛リニ洋銀拾元「両」ヲ拂フノ外他失費ナク其地ノ真實（ホナヽヒテ）地主タルヲ許可ス但シ其地面一百六十「アケル」ニ過ク可カラス亦ニ十「アケル」ヨリ

先得ノ権

モ此ナル可カラス○入籍ノ日ヨリ六ヶ月内ニ親ク其地ニ移住シ二ケ年間ニ家族ノ為メニ相当ノ家屋ヲ造リ其他各種ノ改正ヲ為シ作物等ヲ植付クヘシ然而此二ケ年ノ終ニ及テ律ノ求ル処尽ク之レニ應タルヲ明證スル片ハ政府ヨリ之レニ免状即チ地券ヲ附与ス

二　先得ノ権（プレエンプシヨン）

此律ハ地方役所ニ其意ヲ告ケス戸籍ニ入ラス私ニ

公賣

公地ニ移住轉居シテ一家ヲ取建テ其他諸般ノ改正ヲ為シ土地ヲ開發シ幾年其地ニ連綿居住セル者ニ其地ヲ有スルノ権理ヲ明許スル者ナリ但シ定ノ金ヲ政府ニ納メシム下地（レント）ミニミユムハ一「アケル」毎ニ一元二分五厘上地（レンド）ドヅプル、ミニミユムハ二元半トス

三　地ヲ公賣スルノ律

此律ハ特ニ糶賣ニ於テ現金ニ土地ヲ賣渡スノ方ヲ

米ノ比例價

定ムルノミコハ其時宜ニ應シ華盛頓府地理長官ヨリ特命ヲ下シテ恒ニ行フ者トス

此三律ハ數年ノ間変通増益スル所有リト雖モ其本旨ニ至テハ変ル所ナシ

蝦夷地食料ノ物産ヲ変正スルハ最モ要件ニシテ狐疑遅延ス可カラス

米ハ地ヲ占ルコト大ニシテ且ツ失費多シ而テ其養分他ノ食ニ供スル穀類ニ劣レリ

太政官

米ニ作ル價ハ小麦ト如何

食物養分ノ比例左ノ如シ

小麦	百七	烏麦	百十七
玉黍	百三十八	蕃薯	八百九十四
裸麦	百十七	大麦	百三十
米	百七十七	蕪	千三百三十五

故ニ一百七斤ノ小麦ハ米一百七十七斤或ハ蕪一千三百三十五斤ノ養分アリ而テ米或ハ蕪ノ同量ヲ得ルヨリモ其價安廉ナルコト二割五分トス

太政官

麪餅ト為スヘキ産物ヲ作ルノ利用

米国ノ人民ヲシテ人生幸美ノ各品ヲ享用セシムル
而已ナラス百工技藝ニ従事経営スル者ノ為メニ各
種ノ物件ヲ造ルニ多ク其時其労ヲ費シ依テ以テ一
国ノ貿易ヲ盛大ニ為サシムルノ基礎ハ之レ則チ些
々タル失費ヲ以テ産スヘキ各種ノ果實菜蔬ト費用
少ナク労大ナラスシテ得ラルヘキ麪餅品（小麦等）トヲ
作ルニ在リ国家ヲシテ人民ノ膏血ヲ絞ルヿナク能
ク巨万ノ國債ヲ掃ヒ五万六千「マイル」ノ鐵道ヲ両三
年ノ間ニ開キ剏ヘ國ヲシテ猶富シ且ツ栄ヘシムル
者ハ必シ國民ノ食用ニ充ツヘキ物品ヲ作ルシ其餘
業ニ出ル者ナリ

地皮ノ模様ヲ述ル

日本ノ地皮タル數百年来其耕作ノ方一様ニシテ變
正スルヿナク又種物ヲ同植スルノ法ナケレハ各種
ノ産物尽ク土地ニ相應スル事アルヘカラス然レ𪜈
ツハ地質ヲ吟味シ或ハ植ハ試ヲ為シテ其如何ヲ明ハ
證シ又ハ両様兼施シテ（地質ヲ吟味シ種ヲ卸シ試ム）其地味ヲ推判

移民氣候ニ慣ルヽ

シ之レヲ洞察スルヲ得ハ或ハ耕作ノ道ヲ変革シ或ハ種物ヲ植エ代ヘ禽獣或ハ壙物ノ肥糞ヲ用ヒ又ハ動物死物（エニマル　ミ子ラル）ヲ合セ用テ其欠ヲ補ヒ改正スル事ヲ得ヘシ蓋此一事ハ其由テ起レ因縁肥糞ノ効力如何ヲ詳細ニ検査シ親ク之レヲ試ミ之レヲ察ルニ非サレハ能ハス故ニ一朝ニ審判スヘキノ事ニ非ス但シ地皮ハ天然豊饒ノ地ナリ

日本暖和ノ地ヨリ蝦夷酷寒ノ地ニ移ル者其風土ニ慣レ食物ニ習フハ其変化必ス速カナラス欧羅巴及ヒ美理格ノ同氣候ノ処ニアリテ極寒ニ慣タル者ヲ適度ニ移シ植ヘ防寒ノ方等目前ニ示シテ日本ノ移民ニ教ルニ如クノ者ナシ

民ヲ移スノ策

察ルニ強テ民ヲ移スノ制ハ是ナラハ若此事行フ可キモ極テ頼シカラス○政府ニ真実ナル人民ヲ仕立ンニハ庶人ノ意ニ任セ或ハ、自箇ノ利ノ為メニ引カレ或ハ移ル処ノ土地ニ依テ富ヲ起スルカ為メニ

江戸ニ納屋及ヒ養樹園ヲ取建ル

煽動セラレ好テ遠ク居ヲ移シ轉居移住スルカ如ク
仕向クルニ在リ如此クシテ土着セル民タル用事ア
レハ令ニ應シテ防戦ス可ク其民何レノ地ヨリ来住
スルヲ問ハス国ノ為メニ干城ト為リ以テ外国ノ蠶
食ヲ防ク可シ是レ富国強兵ノ策ナリ
当府或ハ其近傍ニ納屋（デポー）ヲ取建テ養樹園（ナルセルリー）ヲ開キ渡来
ノ諸品及ヒ植木ヲ貯ルノ場処トス可シ蝦夷開拓ノ
為メニ入用ナル諸品草木種物及ヒ接木ハ尽ク外国

耕作学校

ヨリ渡来スル者ナレハ其道遠ク其運送ノ日時永ク
シテ且ツ其過ル処寒暖ノ変遷アルハ之ヲ蝦夷ニ移
ス前半途ニ之レヲ安息蘇生セシメ且ツ豫テ風土ニ
慣レシムルノ場所アルヘシ是亦禽獣草木ノ新種ヲ
日本島ニ移シ植ルノ土地ヲ定ムルノ助トナル可シ
業スルニ学問上及ヒ實験上ノ規律立タル農業ノ方
ヲ日本ニ開カンコ政府ノ志願ナル可シ之レヲ為ス
ニハ此地ノ養樹園及ヒ札幌ノ耕作所ノ傍ニ学校ヲ

政体改革ニ及スヿ

ヲ設ケ農事各般ノ技業ヲ教授シ農業ノ道ヲ一定ス
ルヨリ外他ニ費少クシテ効アルヘキ良方ナシ○此
両所ノ学校ニハ化学ノ試験所ヲ添ヘ農学各般ノ教
師ヲ置ク可シ譬ハ蟲学博士ノ如キ其ノ為メニ数百
元ノ土産ヲ亡フ田家ニ在テハ無量ノ利益アル可シ
方今政体一新シ社交ノ體裁一変セルハ五十年間ニ
此国ニシテ曽テ他邦ノ五百年間ニ進歩セルヨリモ
尚能ク文明ノ域ニ至ラシムルノ基礎タルヿ言ヲ待

人工ノ價ヲ増スニ利アルヿ

スシテ明了也是レ独リ人情政躰ノ上ノミナラス又
以テ闔國百工技藝ノ更巧ニ赴ク可キ所ニシテ實ニ
全国ノ経済一変シ農工ノ手段方法尽ク変革ヲ來ル
可シ
今日ヲ以テ考レハ器械ヲ用テ人工ヲ増益スルハ須
要ニ非サルカ如シト雖モ静ニ人間ノ運行ヲ塾慮ス
ル心ニ在テハ之レヲ籍リテ人工ノ價ヲ増益スルヿ
願ハサルヿアルヘカラス夫レ國ヲ利ヘルヤ其源果

テ人工ヲ増益シ國用餘リ有ラシムルニ在ラハ此國
ノ民國ヲ冨シ勢ヲ逞スルニ他ニ亦何ヲカ探（求）メンヤ
○人身ノ筋力諸力ヨリモ安直ク道路ヲ走ルノ駄馬
或ハ工業ニ用ル（如本）汽力其他ノ器械ト其勇ヲ競フノ間
ハ永久不易開化ノ基曽テ開クルヿナシ
今此國ノ進歩ヲ以テ見ルニ他文明諸邦ニ於ルカ如
ク開化ノ進ミ従ヒ互市貿易百工製造其他各般ノ技
藝次テ起リ精妙ノ器械ヲ以テ人工ヲ補益スルニ至

結局

早春國ニ測量ス可ヿ

ランヿ必ス近キニ在リ故ニ当使ノ業タル独リ一隅
島ノ為ナラス日本全國ノ為タルヿ明白ナリ
此答長文ニ渉ランヲ恐ル、ヲ以テ追テ論ベキノ事
ハ多ク之レヲ略シ蝦夷島ノ開拓并ニ皇國ノ他方之
レニ関渉スル件々至急論ス可キノ数條ヲ述ヘ専ラ
今年施シ行フヘキノ業及ヒ来時工業ノ大本ト為ル
ヘキ件々ニ限レリ
此答ニ添タル両氏ノ書中深ク註意シ後来ノ参考ニ

備フ可キ事数條アリ就中測量ノ如キハ歳末ニ至テ企ル処ニシテ時間少ナシト雖モ当使ノ眼目トスル処ノミナラス一体ノ学問ニ渉リ其効績最モ満足スヘシ務テ早春ヨリ更ニ測量ヲ始メ島中曽テ未タ捜索セサル処ヲ尽ク測知セシメ賜ハンヿヲ勧ム

余茲ニ道路運河幷ニ家屋ヲ取建ル入用高其他蝦夷島開拓ニ就テノ雑費ノ積昏ヲ附録ス大凡我邦ニ於テノ入用ヲ以テ推算セルナリ

貳万六千元	札幌ヨリ石狩川迄車道取建入用
拾九万五千元	札幌ヨリ石狩川迄運河切開入用
三千貳百五十元	在来ノ運河修覆入用
貳拾六万元	札幌建物其他改正入用
六万五千元	小樽迄車道取建入用
三万貳千五百元	地理地質其他測量入用
貳拾万八千元	煤根及硫黄山更開改正株擴入用
三万貳千五百元	札幌耕作所入用建物道具共

江戸養樹園改正入用夫
物草木種物蔵入等

八万四千五百元

通計　六拾九万七千五百元

一九拾万六千七百五拾元

右金高ハ開拓ノ基本ヲ開ク為メ今年費用ス可キ元

價ナリ米等左ニ札幌ヨリ室蘭マテノ車道取建入用

ヲ記載ス此車道ハ速カニ之ヲ開クヲ要ス又函館開

鐵道取建入用ニ併テ茲ニ附録

箱館ヨリ佐和良マテ古道十三里室
蘭ヨリ札幌マテ二十八里ヨ

五拾三万三千元

但シ一里ニ付壹万三千元見込

二口ハ百拾万七千五百元

合　百四拾三万九千七百五拾元

外ニ海岸破土場入用
凡五拾万両見込

鐵道ハ方今之ヲ建ルヲ要セス

役所及ヒ教育向并臨時入用ハ豫メ之ヲ推算スル能

ハス学校取建入用ハ右積書中ニ合記ス

チースオスコンミスレヨン
ホラシケプロン